

■中京都市圏パーソントリップ実態調査について

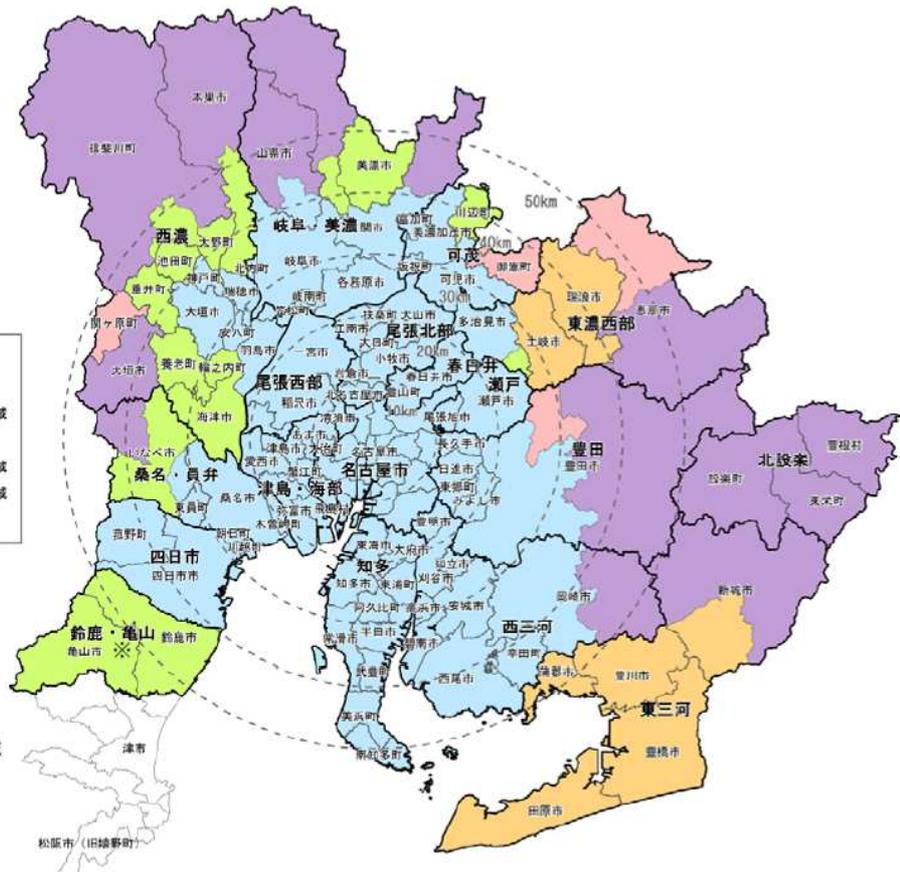
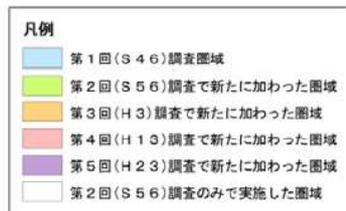
1. 中京都市圏総合都市交通体系調査の概要

- ・パーソントリップ調査（パーソン＝人、トリップ＝動き）とは、1日の移動について、「年齢などの個人属性」「出発地・目的地」「移動目的」「移動時刻」「交通手段」などを調査し、人の1日の全ての移動を捉えるもの。
- ・中京都市圏では、パーソントリップ調査（PT調査）を昭和46年以降10年ごとに実施。
- ・第5回中京都市圏総合都市交通体系調査は、平成23年度から平成25年度までの3カ年計画の予定であり、平成24年度には、「現況交通実態の把握」などを実施。

※中京都市圏総合都市交通計画協議会「第5回中京都市圏パーソントリップ調査結果の概要」より

○調査圏域

中京都市圏の3県（愛知県、岐阜県南部、三重県北部）を調査の対象圏域としています。



※鈴鹿・亀山地域は第3回調査圏域には含まれていない。

2. 中京都市圏における1日の人の動き

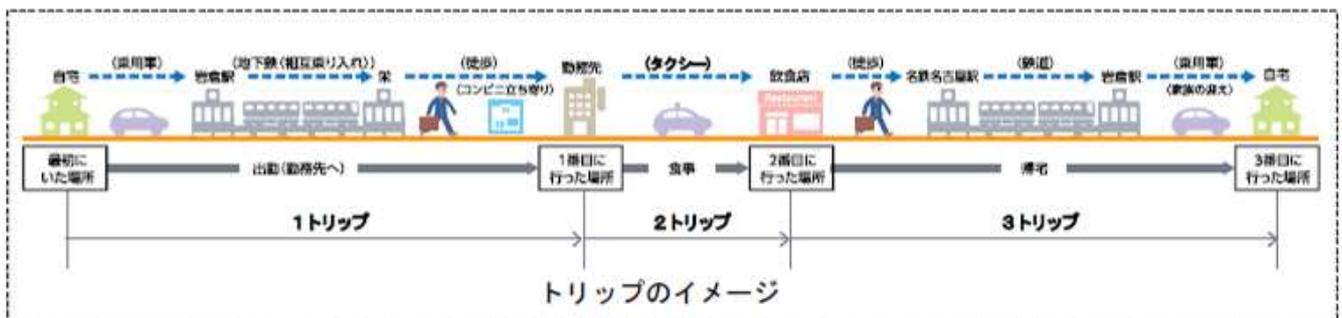
- これまでは、人口の増加に伴って、総トリップ数は増加し続けていたが、今回の集計結果で初めて総トリップ数が減少した。
- 減少した要因として、少子・高齢化や情報化の進展などにより、外出機会や一人当たりのトリップ数が減少していることが想定されている。

対象範囲	96市町村(58市36町2村)
対象面積	10,463km ²
総人口	9,999千人
5歳以上人口	9,485千人
総トリップ数	22,790千トリップ/日



都市圏人口（5歳以上）及び総トリップ数の推移 【第1回調査圏域での推移】

注：このグラフで示す総人口は中京都市圏内に居住する5歳以上人口



3. 機関分担の状況

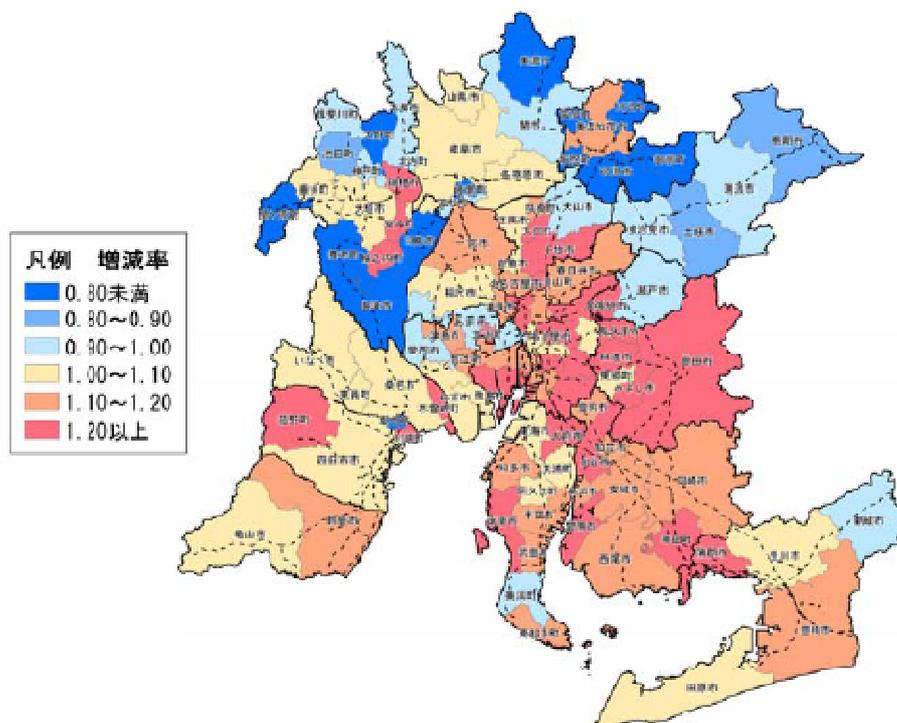
- ・交通手段の内訳の推移としては、愛知県全体では自動車の分担が増加している。鉄道、バスについてはあまり変化が無い。

○手段別発生集中量の推移

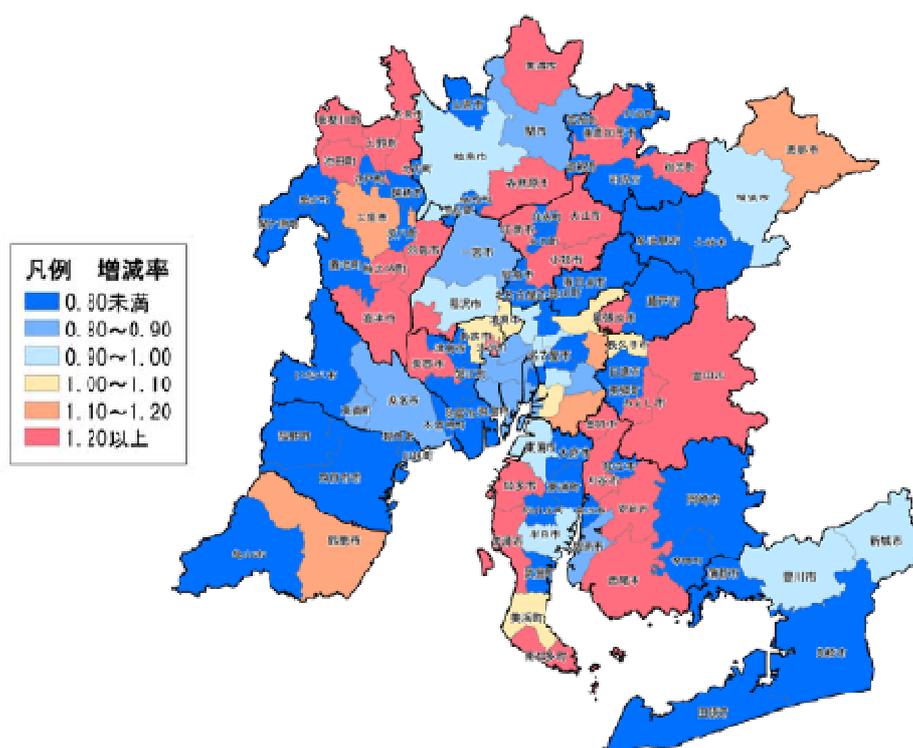


- ・鉄道利用の発生集中量は、蒲郡市だけでなく幸田町でも増加している。JR の利便性向上が影響しているものと思われる。
- ・バス利用の発生集中量は、東三河地域（5市）・隣接の幸田町等、多くの地域で減少している。

○中京都市圏全体の市町村別にみた鉄道・バス利用の発生集中量の増減率



市町村別鉄道利用発生集中量の増減率 (H23/H13) 【第4回調査圏域での推移】



市町村別バス利用発生集中量の増減率 (H23/H13) 【第4回調査圏域での推移】